

MACF 礼拝説教要旨

2021.02.27

「残された人たち」

ローマの信徒への手紙 11 章

11:1 では、尋ねよう。神は御自分の民を退けられたのであろうか。決してそうではない。わたしもイスラエル人で、アブラハムの子孫であり、ベニヤミン族の者です。

11:2 神は、前もって知っておられた御自分の民を退けたりなさいませんでした。それとも、エリヤについて聖書に何と書いてあるか、あなたがたは知らないのですか。彼は、イスラエルを神にこう訴えています。

11:3 「主よ、彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇を壊しました。そして、わたしだけが残りましたが、彼らはわたしの命をねらっています。」

11:4 しかし、神は彼に何と告げているか。「わたしは、バアルにひざまずかなかった七千人を自分のために残しておいた」と告げておられます。

11:5 同じように、現に今も、恵みによって選ばれた者が残っています。

+++++

神様を無視し、律法を持っていながらそれを守らず、神の恵みをないがしろにしてきたイスラエルの民に対して神様は助けの手を延ばしていますが、民はそれを拒否している実態が明らかになりました。

そこで、心配が起きます。そんなことになったらユダヤ人は誰も神の祝福に与れなくなってしまうのではないかという心配です。

ところが神は旧約の時代に「苦難の中を通過しながら残りのもの」たちをちゃんと守り、残してこられたことをパウロは知っています。

エリヤを例えに出して語っています。

エリヤは列王記上 17 章以降に登場する預言者で、バアルの預言者とやりあい、彼らに勝利します。当時イスラエルの王は全く神の声に従わず、異教の神々を持ち込み、それを拝み、悲惨な状況にいたのですが、エリヤはそんな中で神に従い、質素な生活の中に神の誠実な応答を経験し、神の介入による勝利を経験

します。しかし、大勝利を納めたエリヤですが、王女の怒りの言葉を聞いて心が萎れ、実に否定的な発言をしています。絶望的になってしまいます。

++

こういう記述があります。列王記上 19 章です。

長いですが読んでください。

19:2 イゼベルは、エリヤに使者を送ってこう言わせた。「わたしが明日のこの時刻までに、あなたの命をあの預言者たちの一人の命のようにしていなければ、神々が幾重にもわたしを罰してくださるように。」

19:3 それを聞いたエリヤは恐れ、直ちに逃げた。ユダのベエル・シェバに来て、自分の従者をそこに残し、19:4 彼自身は荒れ野に入り、更に一日の道のりを歩き続けた。彼は一本のえにしだの木の下に来て座り、自分の命が絶えるのを願って言った。「主よ、もう十分です。わたしの命を取ってください。わたしは先祖にまさる者ではありません。」

19:5 彼はえにしだの木の下で横になって眠ってしまった。御使いが彼に触れて言った。「起きて食べよ。」

19:6 見ると、枕もとに焼き石で焼いたパン菓子と水の入った瓶があったので、エリヤはそのパン菓子を食べ、水を飲んで、また横になった。

19:7 主の御使いはもう一度戻って来てエリヤに触れ、「起きて食べよ。この旅は長く、あなたには耐え難いからだ」と言った。

19:8 エリヤは起きて食べ、飲んだ。その食べ物に力づけられた彼は、四十日四十夜歩き続け、ついに神の山ホレブに着いた。

19:9 エリヤはそこにあった洞穴に入り、夜を過ごした。見よ、そのとき、主の言葉があった。「エリヤよ、ここで何をしているのか。」

19:10 エリヤは答えた。「わたしは万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました。ところが、イスラエルの人々はあなたとの契約を捨て、祭壇を破壊し、預言者たちを剣にかけて殺したのです。わたし一人だけが残し、彼らはこのわたしの命をも奪おうとねらっています。」

19:11 主は、「そこを出て、山の中で主の前に立ちなさい」と言われた。見よ、そのとき主が通り過ぎて行かれた。主の御前には非常に激しい風が起こり、山を裂き、岩を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風の後に地震が起こった。しかし、地震の中にも主はおられなかった。

19:12 地震の後に火が起こった。しかし、火の中にも主はおられなかった。火の後に、静かにささやく声が聞こえた。

19:13 それを聞くと、エリヤは外套で顔を覆い、出て来て、洞穴の入り口に立った。そのとき、声はエリヤにこう告げた。「エリヤよ、ここで何をしているのか。」

19:14 エリヤは答えた。「わたしは万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました。ところが、イスラエルの人々はあなたとの契約を捨て、祭壇を破壊し、預言者たちを剣にかけて殺したのです。わたし一人だけが残り、彼らはこのわたしの命をも奪おうとねらっています。」

19:15 主はエリヤに言われた。「行け、あなたの来た道を引き返し、ダマスコの荒れ野に向かえ。そこに着いたなら、ハザエルに油を注いで彼をアラムの王とせよ。

19:16 ニムシの子イエフにも油を注いでイスラエルの王とせよ。またアベル・メホラのシャファトの子エリシャにも油を注ぎ、あなたに代わる預言者とせよ。

19:17 ハザエルの剣を逃れた者をイエフが殺し、イエフの剣を逃れた者をエリシャが殺すであろう。

19:18 しかし、わたしはイスラエルに七千人を残す。これは皆、バアルにひざまずかず、これに口づけしなかった者である。」

＊ ＊

神がさまざまな状況の中を通過させながら「残しておかれた民」が存在するというのです。

このままではキリスト教はダメになってしまうのではないか。

このままではキリスト教とは根絶やしにされてしまうのではないかと思われるような出来事が歴史の中で何度も繰り返されてきました。

しかし、神はそれらの状況の中でも「残りのもの」「約束された神の祝福を受け継ぐ人たちが」生かされてきたことを私たちは知っています。

現在でもイランやイラクのようなところにもクリスチャンはいます。

中国にも北朝鮮にもクリスチャンはいます。息を殺すような生活でしょうが、それでも根絶やしにはされていません。

旧約聖書イザヤ書の言葉を思い起こしています。

55:6 主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。

55:7 神に逆らう者はその道を離れ悪を行う者はそのたくらみを捨てよ。主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。わたしたちの神に立ち帰るならば豊かに赦してくださる。

55:8 わたしの思いは、あなたたちの思いと異なりわたしの道はあなたたちの道と異なると主は言われる。

55:9 天が地を高く超えているようにわたしの道は、あなたたちの道をわたしの思いはあなたたちの思いを、高く超えている。

55:10 雨も雪も、ひとたび天から降ればむなく天に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ種蒔く人には種を与え食べる人には糧を与える。

55:11 そのように、わたしの口から出るわたしの言葉もむなくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げわたしが与えた使命を必ず果たす。

55:12 あなたたちは喜び祝いながら出で立ち平和のうちに導かれて行く。山と丘はあなたたちを迎え歓声をあげて喜び歌い野の木々も、手をたたく。

55:13 茨に代わって糸杉がおどろに代わってミルトスが生える。これは、主に対する記念となり、しるしとなる。それはとこしえに消し去られることがない。

希望は常に私たちの前に置かれています。

神への信頼こそ、その希望の礎石なのです。

神は恵みを私たちに届け、それは覆されることはありません。目に見えるところは暗く、絶望的に思えても神様は最終的には希望を与えてくださいます。

パウロはローマの信徒への手紙の終わりの部分にこう書きました

15:13 希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう
に。アーメン。

希望は私たちの前に置かれています。神は希望の源である神だからです。